

北京滞在記 8 月

月 日	イベント	宿泊地 (在北京は省略)
8月22日(金)	北京到着	
23日(土)	ベッド購入・北京ダック	
24日(日)	天安門見学	
25日(月)	北京日本学研究センター訪問	
26日(火)	買い物 Day	
27日(水)	北海学園大学 西川さん	
28日(木)	天津へ出発	天津・南開大学
29日(金)	トヨタ自動車天津工場見学	天津・南開大学
30日(土)	万里の長城見学	天津・南開大学
31日(日)	天津から北京へ帰る	

8月22日

6:40、元にも送ってもらって駅に。日暮里 7:31 の京成特急で空港第 2 ターミナルに。出発ロビーのクロネコ便カウンターで荷物 2 つをとって、航空券をもらってチェックイン。カード・ラウンジでコーヒーを飲みながら日経を読む。出国チェックでは、バッグを開けるハメになった。ドッジ・ペーパーと資料コピーがバリアーになって中身がはっきりしなかったため、恵子は、詰め直しに一苦労。アスカ・ラウンジで、レミーを 2 杯楽しむ。

11:25、30 分遅れで東方航空 MU508 便は離陸、エコノミーはかなり乗客がいるがビジネス席は我々の他は 1 組だけで、アテンダントのサービスは過剰気味。離陸を待つ間はヘネシー、ランチにはボルドー。機内食は美味しい部類。食後、昼間なのに灯を消して窓を閉め夜間態勢になる。テレビが正面の 1 スクリーンだけで、イヤホン無しのせいかもしれない。安上がりに飛ばしている。

瀬戸内海から対馬海峡を越えて韓国上空に入る。中国機が韓国領空を飛び始めたのはいつからなのだろう？ドッジ・ラインなど書いているから、つい 1950 年が頭に浮かんでしまう。韓国の川は相変わらず茶色だ。高速道路も伸びている。

3時間ほどのフライトで北京着。エプロンが開くあいだ、アテンダントに聞くと、大卒だが高卒の娘もいるとのこと。中山美穂に似た美人で、英語も上手い。彼女たち、着陸態勢に入って着席している間も、じつによくおしゃべりをしている。欧米系の飛行機ではあまり見かけない風景だ。

北京空港では重いバッグがなかなか出てこないの、迎えの北京日本学術センターの畔上さんに待ってもら。先着の和栗さん、篠崎さん夫妻と一緒に、次の便の樋口一家を待って、センターの小型バスで友誼賓館に向かう。

625棟の37号室に入居。専科食堂で、みんなで夕食。8:30、元を迎えに畔上さんと空港へ、センターの乗用車で出かける。車中、中国の人たちは何が欲しいのかという話で、やはり物質的な豊かさだという。政治的自由は、当面はあまり対象にはならないらしい。経済成長が続く間はそうなのだろう。格差は拡大するが、成長が続く限りは底辺部分も豊かになるのだから。その後が、本当の問題だ。

元、定時着。帰室して、ホテルのスーパーマーケットで買った缶ビールで乾杯。缶ビール(355cc)は3~4元。北京ビールは、アサヒの子会社とは、元の話。なるほど、北京朝日[口偏に卑]酒(ビール)有限公司と書いてある。

眠いので早寝。

8月23日

朝は、人民大学裏の小南村まで散歩。犬の散歩が多いのにはビックリした。以前は狍系が主流だったが、西洋犬系のミニチュア犬を連れている人が多い。個建て住宅地ではなく、かなり古いアパート地帯だから驚く。部屋で飼うのは自由なのだろうか。

朝市は、規模は小さいが品揃えはまあまあ。馬に牽かせた西瓜屋、太刀魚の切り身を売る魚屋、枝豆・3尺ササゲ・ニンニク・トウモロコシ・トマト・ジャガイモ etc.を売る農家などで賑わっている。

朝食は本楼でバイキング。@55元のところ、専科割引で@50元。朝市で見かけた糸豆腐の煮物が出ていた。卵コーナーで、チーズ・オムレツを作ってもらったが、徹底的に火を入れるので固くなりすぎ。

10:00から元が畔上さんに連れられてベッドを買いに行く。4人家族の樋口さんも買うので、特売品をさらに値切って、なんと1台500元、寝具を付けて680元で購入できた。驚くべき安さだ。この間、チャイナネットとの接続を試みるが不成功。Gricでローミング接続したが、ネットとメール受信はできたが、送信が利かない。ネットから入ったの送信はできるが、いささか不便だ。

昼食を専科食堂で取ろうとしていたら樋口さん達と一緒にだったので合流。昼からビールを飲むので、坊やたちはあきれ顔。電話でベッドがとどいたとの知らせで元が行って荷受け。帰ると結構なベッドだ。2セットを配達した

のは中年の男性がこぐ1台の3輪荷車。近いところの家具モールからだが、さすが中国だ。

5:20 集合で、九花山北京ダック店へタクシー。近頃、全聚徳より評判の店とのこと。コースと飲み物で@195。代田主任、清水副主任一家と新任者で、総勢17人(子ども5人)。アヒルの舌入りのスープなどなかなかの品揃えだが、最後のスープは、全聚徳より劣る。

8月24日

昨日の約束で7:00に樋口悠野くん(小学校6年生)と朝市に出かける。着いたときはもう片付けかかっている、目当ての枝豆は無く、馬車も帰ってしまっていた。桃を六、七個5元、西瓜を3.5元で買ってから、村の売店でハミウリを8.5元、饅頭五個2.5元、生ピーナッツ1元を購入して村外れからタクシーで帰る。西瓜・ハミウリが悠野くんの中国初買い物。美味しければいいが。

朝寝のあと、小物を買いに一人で出る。金物が欲しかったのだがここらは小売店が無く、商場に入ってもホームセンター的な売場はなかった。ちまき・スペアリブ・焼鶏・肉団子(合計48元)、長城ワイン(51元)を買って、昼食。

留守中、天津社会科学院の郭先生から電話があったとのこと。法政大学にいらした仙波先生から伺った電話番号にかけると不通。昼寝の後、元がメールを設定するが、やはり送信ができない。

夕方、バルコニーに出た恵子が、涼しくなったというので外出。バス(@1元)で西直門、地下鉄(@3元)で復興門乗り換え天安門東駅下車、天安門へ。地下鉄の暑さは異常。車中で、二人の子どもが物乞いをしている。跪いての行為。この国の最末端。

天安門への入場時間は過ぎていたので、世界遺産の門まで行ってUターン。6:30、衛兵交替の時間で天安門は一時交通遮断。待つことしばし、門をくぐって左折、王府井へ歩く。相変わらずの賑わい。マックでソフトクリーム@2元。

美食坊夜市で、餃子(10個5元)、焼き肉2串(@5元)、焼きそば(5元)、焼き餅(5元)、葱餅(5元)を買う。サソリは5匹1串が15元と高い。コオロギも同じ値段。ヒトデも、サナギも何でも有り。タクシーで帰って32元、動物園のそばに家楽福(カルフル)がある。買い物で夕飯。長城ワインは、軽め。

郭先生から電話で、天津でお会いすることにする。今日は、南開大学の沈先生からの電話で、南開大学の專家楼宿泊可能とのことだった。

8月25日

朝は北京理工大学村へ買い出し。野菜類は荷下ろし中の露店もあり、豊富。トマト5個1.7元、枝豆500gくらい1元、カリフラワー大1.5元、豆乳1000cc0.8元、揚げ饅頭3個1.3元。校内の広場の太極拳は相変わらず盛んだが、ジョギングが目立つのが新しい。道路に

もジョギガーが沢山いる。畔上さんの話では、サーズ流行中に、抵抗力を付けるための屋外運動が盛んになり、消費財売上げが落ちるなかで、運動用具だけはどんどん売れたそうだ。ジョギングもダイエットではなく、サーズの名残に違いない。バドミントン、ピンポン、凧揚げも流行ったとのこと。

9:00、バスでセンターへ。パソコン関係は元に頼む。センターは8億5800万円のODAで建った立派なもの。和室・同時通訳付き国際会議場・研究室・教室・パソコン室・マルチメディア室そして図書館がすべて新しくて綺麗だ。図書館は、文科系は充実しているが、社会科学系はまだかなり不十分。

ネット接続やセンターHPに関して問題点を元が見つかる。ふたつあるHPについては、一つを削除することを勧める。センターのウェブ管理体制は、かなり混乱している可能性がある。メールの海外送信が不安定なので、新しいホットメールを開設して送信することにする。

1:30、センターを出て帰室。あり合わせの昼食後、家楽福（カルフル）へ買い物。動物園近くの店で、ビール、ワイン、食材、スニーカー、掛け時計などを購入。

5:30、人民大学の李平ご夫妻と待ち合わせて、九頭鷹レストランで会食。湖北系の料理で、新しいものが多かった。川魚の薄切りを串でさして揚げた上に豆醬あんを掛けた皿、豚肉をお焦げの米で煮込んだ皿などは特に珍しかった。奥さんに院生の授業に顔出すことを約束。人民大学の孔子像は誰かからの寄贈品とのこと。

ご夫妻が双安商場の家庭用品売場まで案内してくれてコーヒーフィルター紙を訊いてくださったが小さいサイズしか無い。ガラスのポットが欲しいので見たが、割高で見送り。再会を約してお別れ。

8月26日

朝は、恵子と理工大の市場に買い出し。アスパラガス、ニンジン、殻付きピーナッツ、丸なす（0.8元）、里芋、西瓜（8元）、ライチー、小包子を購入。ライチーの一束が32元を高いと感じるのは中国的金銭感覚が身に付いてきた証拠？

昼前に、秀水市場にタクシーで出かけるが、運転手が道を間違えて日壇公園まで来てしまった。歩いて日本大使館前を通るが、向かい側に並ぶ旧共産国大使館に比べると、正面の見かけは良くない。秀水市場は相変わらずの人出。名刺入れが目当ての元は、値切り交渉不成立で、紅橋市場に移動。名刺入れと淡水真珠を購入。崇光（そごう）百貨店に行って6階美食街で昼食。支払う金額を入力してもらったカードで購入する方式。香腸1本5元のつまみが美味。

上から見ると、古い建物が取り壊されて新しいアパート団地に再開発されている様子がよく見える。タクシーで移動していると、市内のいたるところが再開発中だ。道路も広くはなっているが立体交差点付近の渋滞はひどい。人民網の日本語版では、北京415万世帯に自家用車45万台に達したという。驚異的なはやさのモータリゼーションだが、ここに来

て乗用車の生産過剰感が出てきたようだ。今年前半期は生産台数 89 万台、販売台数 84 万台で在庫が増えているとのこと。

ローヤルゼリーとコーヒーフィルターなどを買って帰室。天麩羅で夕食。粉のせいか、さくさく感が強い。長城ワインと王朝ワインを飲み比べるが、双方かなりのレベル。

9:30、北海学園大学の西川博史さんから電話。なんと夕張メロンの栽培農家とハミウリ栽培を見に新疆に行く途中とのこと。明日会う約束にした。

8月27日

朝は、双楡樹通りへ散歩。常設市場の双楡早市を発見、野菜果実中心に賑わっている。露店ではマナガツオ、生きエビも売っているが肉類はない。ロバの牽く西瓜屋が4台も来ている。日本で普通の大きさの生ピーナッツを購入。1元買おうと思ったらダメだということで2元買うと2合くらいくれた。

双楡公園では、太極拳の時間で、いくつかのグループがおもいおもいに音楽に合わせながらゆっくり体を動かしている。老人が多いが、若者も混じっている。公園の向かいには鉄製の運動用具が備えられて、足こぎやストレッチ、ぶら下がりや大人がしている。これらは、サース効果かもしれない。

愛玩犬を連れた人たちも多い。中国も、スーパーにペットフード・コーナーがあり、テレビコマーシャルもやっている時代になった。

朝食用包子を買おうと思ったら、1蒸籠3円で、持ち金が足りず、見おくり。出がけにみんなが寝ていたので、机の上の小銭を持ったが4.2元しかなかったため。つまり、財布は妻子に握られているわけ。

午前は、買い物。まず、近くの電器屋でCDラジカセ(三洋@529元+イヤホン@29元)。驚くのは店員の数の多さで、ショウケース毎に一人は居る。支払方法が、店員の書いた伝票をレジに持って行って代金を払ってハンコをもらってから現物を店員から受け取るという仕組みだから店員はかなりの数は必要になる。それにしても数が多い。

ラジカセを持ち帰ってから、恵子と人民大学裏のスーパーに行く。ガラスのコーヒーポット、パン皿、碗、墨汁などと食品を買う。碗は円形の本石で18元。瑠璃廠で買おうと思っていたのだが、これで間に合わせる。風糸が500mで25元であることが分かった。そのうちにタコを飛ばす予定。

2:30に民族飯店で西川さんと会う。中国事情をいろいろ聞いた。天津に出た日本のペットフード会社は、西川さんの口利きとのこと。朝出会う犬たちが、西川さん関係のフードを食べているかと思うと可笑しくなった。彼は、ハミウリの産地を見学する一行を連れて今夜の飛行機で新疆に飛ぶようだ。夜の12時頃着くが、2時間くらい実質時差があるので夜の10時につくような感じだそうだ。

江沢民が来日したとき北海道にだけ行ったのも、西川さんの働きが利いたらしい。堀前北海道知事は、折角中国に招待されそうになったのに断ったそうで、呆れた。北東アジア

研究交流センターの看板を書いてもらう手配をしたが、北海の人が頼み損なったという話は面白かった。頼みにくいという感覚だったようだが、江さんは書き損なって残念だったに違いない。なにしろ、どこの看板でも書くのが好きな人なのだから。昨日ローヤルゼリーを買った北京同仁堂にも、江さんの軸が掛かっていた。

帰室後、恵子と元が航空券と明日の切符を買いに行った。鉄道切符は買えたが、航空券は英語が通じない係だったので買えずに帰ってきた。これでは、オリンピックが心配になる。

あり合わせで夕食。

夜、雷雨。

8月28

朝は小雨。ホテル向かいの成都小吃で小包子2蓋(@3元、10個)を買って朝食。沈さんに電話して到着時間を告げ、昼食に誘う。

8:30 出発、混んではいたが北京駅に9:40 ころ到着。10:14 定時発車、途中は止まらずに天津駅に11:30 着。ところが沈さんが見えない。少しプラットホームで待ってから出札口に行くが会えない。恵子がプラットホームまで見に戻った時に、沈さんが駆け足で出札口を通り抜けて行くのが見えた。声が届かなかったので待つが、戻ってこない。元が見に行ったら、沈さんだけが戻ってきたので、いま、二人が先生を探しに言ったというと、沈さんが迎えにいったようやくみなが一緒になれた。市内が混雑して沈さんは1時間かかって駅まで来てくれたようだ。駅から南開大学までも、大混雑。北京より道路建設が遅れている天津に車の数が増えるのだから、当然の帰結だ。

專家楼に投宿。昼食を楊先生、宋、沈、石、臧さんたちと楽しむ。皆さんお元気で祝着至極。臧さんは、日本留学が延期になったとのことで、坊やとご主人にとっては良かった。帰室して昼寝。

4:00、日本研究学院に行く。国際会議の準備中で、皆さん大童。山澤逸平国際大学学長も見えるよし。韓国から早稲田に留学して南開大学博士課程に入る李さんと話す。日本占領と韓国占領の比較研究を土地改革を対象にして試みたとのこと。修士論文を見せてもらうことにする。

趙先生、王振鎖先生、王健宜先生と再会のご挨拶。

6:30、南開愛知大学会館で、皆さんと夕食。愛知大学の学生さんは、サーズで全員が帰国し、王先生の学院から10人ほどの中国語先生が日本に出向いて授業を続けたとのこと。なかなか大変なことだったらしい。

帰室後、大学前の通りを散歩。街灯が映る川面はきれいだが、ドブのような匂いはいただけない。缶ビール、豆菓子、インスタントラーメンを買って帰る。

8月29日

朝、西南村に散歩。学内いたるところが再開発建築中ですごい。西南村の売店前は新しい

大きな橋で表通りと繋がっている。3月には工事中だったところだ。豆乳、焼餅、中国クレープ、肉挟み餅などを購入。みな1～2円で、安上がりな朝食だ。

天津社会科学院の郭承敏先生に電話して、部屋で待つ。テレビ塔近くに住む先生は、1927年台湾生まれで、一高時代には安良城盛昭さんや不破哲三と一緒に、中国革命の直後に中国に帰って、建国活動をするうちに文化大革命を体験、下放で豚飼育のあと党重要文献の日文翻訳に従事されてから沖縄大学教授、いまは天津に帰られた。お歳に較べるとお元気なのはおそるべし。日本帝国主義批判、現代中国への懸念などを語り合う。いずれ、社会科学院でセミナーを開くことを約束。著書をくださった。

郭先生を送りがてら元を日本研究学院へ連れて行く。途中の国防工事、つまり防空壕、1970年代の中ソ対立の産物を見せる。学院では宋さんが案内してくれた。図書室には、2月に送り出した社史類も並んでいる。かなりの本が、寄贈者ごとに棚に並んでいるが、ばらして分類別に並べた方が利用者としては便利だと思う。ほどなく、家永三郎さんの蔵書も入るとのこと。

昼食テイクアウトを愛大会館食堂に買いに行くと、昨秋、青山に来ていただいたPang副学長の通訳を頼んだ一橋大学大学院留学生の楊東さんに出会う。9月の国際シンポジウムで報告するために帰国中で、日本からの視察団の案内も仕事だという。

1:00 沈さんと楊柳青へ。石家大院を訪問して、3月に撮りそこなった「知足知足齋」の扁額をカメラに収める。まわりの建築は急ピッチで進められていて、やがて、大院を中心にしたテーマパークが出現しそうだ。一服してから、天津トヨタ自動車工場へ。

楊柳青市街地を抜けて10分ほどで第一汽車工場隣の天津トヨタに着く。加藤人事課長が出迎えてくださって、竹本社長から説明をうかがう。VIOS威馳は順調に生産を拡大し、やがてカローラも生産を始めるが、本格的には臨海工業地帯に第2工場を建設してクラウン生産を行う。2005年の操業予定で、2年足らずの期間で2ラインの大型工場を新設するのが7月に赴任された技術畑出身の竹本新社長の任務。大仕事だが、この国の驚くべき再開発ブームとそのスピードの速さを見ていると、短期間のトヨタ第2工場建設も可能に思える。

加藤課長の案内で工場を見学する。平均年齢22歳の中国若者の手で、今日は約250台のVIOSが造られていく。竹本社長が、ほかのトヨタ工場とは違いますといわれたことが良くわかった。つまり、超自動化されたケンタッキー工場などとは対極的に、労働者の手造りで一台一台が誕生していくような工場だ。ボディ工場では部材も製品も人力台車で流れている。自動溶接もあるが手溶接も多い。組み立て工場でも、部品の供給から組み付けまで手間暇かけた人力作業という感じ。検査工程も外観から機能にいたるまで、実に念入りに行われている。いささかタイムスリップして懐かしい時代の自動車工場に来たような印象だ。

旧天津汽車、現天津一汽夏利工場に取り囲まれるようなかたちの敷地に新設されたので、レイアウトに制約があること（エンジン工場などは別の場所にある）、合併事業でトヨタ

自動車が投資額を極力絞った事などが原因だ。

労働力の質は日本と変わらないほど高いが、新規の若者を採用するので、中堅労働力に育つまでの教育訓練が大きな課題になっているとのこと。日本から短期派遣される熟練工が指導に当たっている。QC活動もおこなわれ、提案制度もスタートしているが、なにしろ昨年10月の創業開始で、まだ定着途上ようだ。

モノづくりの原点に帰って自動車を造っているような天津トヨタには、驚くと同時に、一種独特の感銘を受けた。

夜は沈さん一家と、杭州料理を楽しむ。溪々（シーシー）ちゃんも大きくなって英語も上手になったが、高校受験の勉強に追われて大変だ。中国の教育競争にはすさまじいものがある。一人っ子政策の結果か、子供にかかる親の期待と投資は極大化している。学校でも、テストの成績を公開して順位を競わせるらしい。それでも溪々ちゃん、日本漫画が大好きようで、新しいマンガについての質問で元を困らせていた。

8月30日

朝、大学の向かいの通りを直角に歩いて同安市場で中国パン、挟み餅、包子、豆乳を購入。10円以内の買い物。

石さんが車の手配で一苦勞。物理学院のサンタナを用意してくれる。楊先生が部屋に見えて今日の長城見学の注意をくれる。寒いから厚着がいいとのこと。上着を持って出発。2時間ほどで長城近くの町まで来る。ここで昼食にする。玉米酒店で、野の野菜、野の鶏、野の茸の料理をとる。茸は、網茸の一種でぬめりがあって美味しい。トウモロコシの麺は初めて食べたが、どうやって繋ぐのか不思議。

1時間足らずで長城、黄崖関長城に着いて城に登る。八達嶺とかなり雰囲気が違う。観光客は少なく、城壁は黒っぽい。一人で高いところまで登る。

帰路、独楽寺の木造十一面観音を見る。高さ16mというから、世界最大の木彫かもしれない。頭部の対面まで登れたようだが、見損なってしまった。乾隆帝の書を集めた壁もある。

サンタナの運転手は人民解放軍出身の偉丈夫で、運転は上手いが、この国並みの反対車線追い越しをするから、ときどきひやひやする。天津に向かう車線には、碎石や石材を満載したトラックが多い。みな過積載のように見える。建設ブームの反映だ。

夜は南開大学の皆さんをご招待しての宴。これまでの店とは違うところをと注文しておいたところ、タクシーが着いたのは「漁夫碼頭」という大きな海鮮料理店。1階中央にいくつものガラスの生け簀があり、チョウザメからウミヘビを含めて、さまざまな魚介類がいる。小型のカートを押く女性と一緒に生け簀を回りながら、係りに指示して食材を網ですくい計量してもらってカートにいれ、調理方法を指示すると、ハンディPCに入力していく。生け簀の周りには肉・野菜などの皿が展示してあって、カートの女性に注文を入力させる。すっぽんや牛蛙はもちろん、鰐肉や生きたサソリもある。陳さんに注文を任せましたが、

子豚の丸焼きと大きな鰻（海鰻魚）は元の注文。

2階の個室で大きな円卓を17人が囲んでの夕食は、料理も酒も、会話も最高。

ここは4階建てで収容力は4000人、予約でほぼ満席。このような生け簀海鮮店が天津に4店あるというから驚く。中国の人の「食」に注ぐ情熱のすごさが実感できる店だ。

8月31日

朝、天津大学村に行こうとしたら、唯一の細い通路が閉鎖されていて通れない。やむなく西南村に向かったが、村と大学の間には鉄の柵ができていて出られない。柵を乗り越える人がいるので、真似して村の市場に入り、挟み餅・パン・豆乳を購入。10元は超えない朝食。恵子と元は昼食用の狗不理包子を買い出しに正門前の店まで出かける。

沈先生、臧さん喬さんが送りに来てくれたので、9月6日からの国際会議出席の段取りを相談する。5日では夜到着になるので、6日朝に来ることに決める。

10:30、南開大学に留学してきたNSさんがご両親を北京空港まで見送るマイクロバスに同乗して出発。楊先生、宋先生も見送りに来てくださった。1週間後の再訪を約してお別れ。

京津高速道路を走る。開発区の大学郷では、かなりの数の校舎が立ち上がっている。1時間半ほどで第3環状線に着き下車、NSさん達とお別れ。タクシーで帰室、包子昼食。

昼寝のあとはメールと提出書類の整理。代田主任教授に南開大学国際会議出席届け、星くんに写真を送付。夕食は専科食堂からの打包、つまりテイクアウトの肉料理2種・チャーハンと自家製のジャガイモ炒め。

久しぶりに宮本武蔵を観る。ここは、衛星第2が入る。